

資料 5

環境清掃審議会資料

令和 7 年 3 月 24 日

環境部ごみ減量対策課

令和 6 年度 家庭ごみ排出状況調査について

令和 6 年度家庭ごみ排出状況調査について、以下のとおり報告します。

1 調査概要

(1) 調査目的

家庭から排出されるごみ量及び性状等の調査を行い、今後のごみ減量・リサイクル施策推進のための基礎資料とすることを目的として実施した。また、令和 6 年 10 月から松庵 2 丁目及び大宮 1・2 丁目で実施している、プラスチック使用製品の分別回収を今後区内全域で実施するため、調査で得られたデータをもとに検証を行った。

(2) 調査項目

- ア 組成分析調査（可燃ごみ・不燃ごみ）
- イ 食品ロス調査
- ウ 電池使用製品調査
- エ プラスチック調査

(3) 調査対象・規模等

家庭ごみを対象とし、住宅形態を 4 区分に分類、調査地域を 8 地域、調査対象地点を 11 地点として実施した。

住宅形態	調査地域
戸建住宅	和泉 3 丁目、大宮 1・2 丁目、松庵 2 丁目
大中規模集合住宅	下井草 3・4 丁目、松庵 2 丁目
住宅商業混在住宅	上荻 1 丁目、高円寺南 3 丁目、方南 2 丁目
単身者向け集合住宅	大宮 1・2 丁目、松庵 2 丁目、宮前 3 丁目

(4) 調査時期・作業場所

令和 6 年 11 月 14 日から 27 日までの間、調査対象地点ごとに回収したサンプルについて、杉並清掃工場・プラットホームで実施した。

2 組成分析調査結果

(1) 可燃ごみ

組成割合（調査全体）

最も割合が多いのが生ごみの 27.07%で、次いでプラスチックが 15.11%、紙類が 14.43%の順となっている。

(2) 不燃ごみ

組成割合（調査全体）

最も割合が多いのが陶磁器類 16.49%で、次いで金属製品が 14.80%、小型家電 14.13%の順となっている。

3 食品ロス調査結果

可燃ごみのサンプルのうち、生ごみ（食品廃棄物）を「直接廃棄（手付かず食品）」「食べ残し」「過剰除去等」「調理くず」に分類し、「直接廃棄」と「食べ残し」を食品ロスとして集計した。さらに直接廃棄については、「直接廃棄（100%残存）」「直接廃棄（50%以上残存）」「直接廃棄（10%以上残存）」に分類し調査を行った。直接廃棄における残存量別割合は点数及び重量ともに「100%残存」が 60%以上と高い数値を占める結果となった。

4 電池使用製品調査

可燃ごみと不燃ごみの中の小型家電を対象に調査を行った。電池を使用する製品は小型家電の中に 48.54%あり、充電式電池使用製品中、電池の取り外しが可能な製品は 31.58%、一次電池使用製品では 90.32%あり、充電式電池使用製品の多くが電池の取り外しができない製品であった。

5 プラスチック調査

令和 6 年 10 月よりモデル事業を実施している地区内での容器包装プラスチック及び製品プラスチックの排出・分別状況を調査した。その結果、発泡トレイが 2.74%、発泡トレイ以外のプラスチック製容器包装が 81.05%となり、新たに資源回収の対象となった製品プラスチック（汚れなし）は 7.12%となった。製品プラスチックの実例として、ハンガーやクリアファイル、保存袋などがあつた。